

4月大天体ショーが始まる



今月は月が話題を独り占めです。最初のキーワードは「接近」です。左の図の真ん中をご覧ください。4月17日午後10時30

分、西の空低くには月齢5.5の月とそ
のすぐ上辺りに、火星が乗っかるよ
うな状態でこの両者は最接近してい
ます。この状態も結構見応えがある
のですが、午後8時頃の両者の位置
を先ずは見ておいて欲しいのです。

接近あり、ピンクあり、〇〇Xありだ!!

今月は月が話題を独り占め!!

プラネ新聞

発行所 岐阜市科学館
〒500-8389
岐阜市本荘3456-41
TEL: 058-272-1333
FAX: 058-272-1303

もう少し南寄りの高い位置にいますが、この時の両者の位置からすれば、かなり月が火星の左側に移動していることが肉眼でもわかります。たった2時間30分ですが、「月がこんなにも動いているのか」と実感できる瞬間でもあります。

もう少し南寄りの高い位置にいますが、この時の両者の位置からすれば、かなり月が火星の左側に移動していることが肉眼でもわかります。たった2時間30分ですが、「月がこんなにも動いているのか」と実感できる瞬間でもあります。



そして昭和のロマンを感じてください。

「星空へのあこがれ」

前回に引き続き、大変に好評をいただいている素晴らしさが理解されていない「人気のない展示物」の紹介です。「星空へのあこがれ」です。昭和33年から昭和59年まで岐阜市水道山で使われていたプラネタリウムです。これは世界中で遊台作られたうちの1台で日本では2台しか納入されていらない大変貴重なカールツァイス製の機械です。日周運動軸のカウンターユニットが曲線に包まれ、モーターの収納部も球形に仕上げられており、これをプラネタリウムといった風貌です。また、ガラスケースの外側からボタンで日周運動軸を回すという操作ができるという展示、一度体験してみたいかがでしょうか。

春の大三角の勝ち!

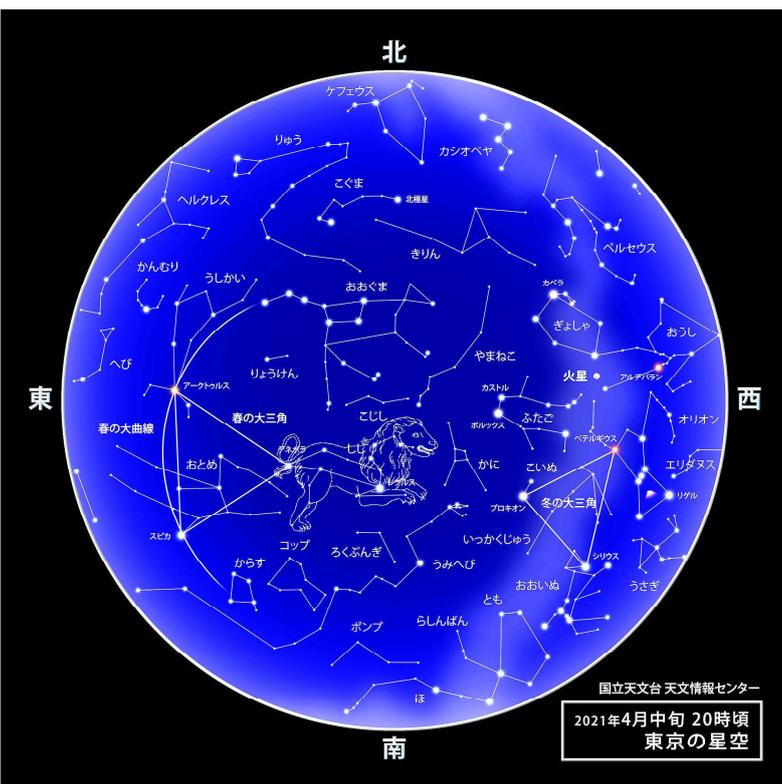
さらびやかな冬の星座達をかなり西へ西へと追いやっていくのが春の星座達です。春の空には冬ほどの賑やかさはないものの、巨大な星座達で満載です。

そんな中、左の星図をご覧ください。大きな三角形が2つ描かれています。冬の大三角と春の大三角です。それぞれ東西に分かれて対峙しているようです。冬の大三角はご存じオリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンとで構成されています。春の大三角はというと、うしかに座のアルクトウールス、おとめ座のスピカ、

しし座のデネボラとで構成されています。

さて、ここでクイズです。この両者が睨めっこをしました。一体どちらが勝ったのでしょうか。

答えは春の大三角です。睨めっこをしていると時間が過ぎていきますね。このまま睨めっこを続けていると星座達は西へ西へと移動していきます。そしていつの間にか冬の大三角は西の空へと消えていなくなってしまうのです。ですから春の大三角の勝ちなのです。



国立天文台 天文情報センター
2021年4月中旬 20時頃
東京の星空